

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】

令和 7 年 6 月 20 日

評価対象事業		評価者	商工課長 角田 如生	
市民-27	技能振興事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	商工課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	6-(3) 勤労者福祉	施策の方針	6-(3)-①労働環境の充実

1 事業の目的

対象	技能職者
意図	技能職者の技術水準の向上や、社会的地位の向上を図るため。
効果	技能振興を図る。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

技能功労者等の表彰、技能祭の共催及び技能職団体連絡協議会の活動を支援することにより、技能振興を図った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)		指標(目標値) 予算額(千円)	
01	技能者表彰事業	技能者表彰の実施	表彰者の人数(人)	11 / 46	16 / 130	16 / 130	68.8%
02	技能職団体活動支援事業	技能祭の開催 技能職団体連絡協議会補助金	—	/	/	798	—
03	一般事務経費	消耗品費	—	/	30	30	—
04				/			
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	521 /	826	958	
			事業費の合計(千円)	521 /	826	958	
			人件費(千円)		6,620	7,106	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
会計年度任用職員	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	技能者表彰事業	令和6年度は前年度の6名から11名に表彰者が増えたが、技能職の担い手の減少に伴い、表彰対象者についても減少傾向にあると考えられる。	技能職者を表彰することにより、多様な技能への市民の関心を高め、技能職者の社会的地位や技術の向上に寄与し、技能振興の充実を図ることができる。	多様な技能への市民の関心を高めるとともに、技能者の育成・確保となるよう、引き続き事業を継続していく。
02	技能職団体活動支援事業	技能職団体の活動に対し、事務局としての支援及び財政支援により団体の活性化及び市民への周知はできるが、事業の参加者や補助金の額では効果が図れないため、指標設定には馴染まない。	技能職団体の活動を支援することにより、多様な技能への市民の関心を高め、技能者の社会的地位や技術の向上に寄与し、技能振興の充実を図ることができる。	現在の技能祭会場は、令和9年度以降使用できないことから、収穫まつりとの同時開催も含め開催方法等の再検討が必要である。引き続き団体の活性化や技能振興の充実のため、支援していく。
03	一般事務経費	消耗品の購入のため、指標設定の対象外。		
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-2 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-1 市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要な事業がある
		○.協働実施済 協働実施済の場合のパートナー 鎌倉市技能職団体連絡協議会

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 拡充 改善・変更 現状維持 縮小 休止・廃止

技能職者が担う仕事は日常の市民生活において必要不可欠なものであり、また、専門的な知識や技能を必要とするものであることから、後世に伝えていくためにも後進の育成が大切なものとなっている。市民の方々に技能継承の必要性を知ってもらうための効果的な手法について、技能者表彰や技能祭のあり方を含め検討していく。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	技能者表彰受賞者数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
優秀な技能者の増加は市民生活の向上に寄与するため	目標値	15	15	15	16	16	16	
	実績値	13	8	13	6	11		
	達成率	86.7%	53.3%	86.7%	37.5%	68.8%		

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	技能者表彰の実施の有無及び令和6年度の表彰者数							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	逗子市	三浦市
他市実績	有	有	有	有	有	有	無	無
	11	28	25	8	11	34	-	-

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	技能者表彰はほとんどの市が行っているため、各市町の表彰対象基準や表彰人数などについて継続して注視する。
--------------------------	---